

成化御筆
 卷八
 日御所
 藏
 本

[illegible]

東坡先生詩集卷之六

一 來十八日於所即行別後即
 一 以家成度月十增以幼之所
 一 明十者以道中一係自遠以廣
 一 有以骨輕之所御誠以探
 一 右之也故通達以和以依幼之而反

為之病及此遂有難處以相示之



十二月十四日 卯日

三目止方即達在焉

此處事作之方即達在焉

通之方即達在焉

地之方即達在焉

測之方即達在焉

將之方即達在焉

之方即達在焉

之方即達在焉

之方即達在焉

之方即達在焉

之方即達在焉

之方即達在焉

之方即達在焉

音言所達

問答

之暇、漫寫數行、
 想將近矣、去而
 臨、審、未、為、正、清、新、之、物、與、心、甘、如、飴、
 孝者五月廿等、中系一、天延、
 上様、

是名漢師誦譯之為要也

[illegible]

惜新... 痛... 大恩... 仁... 震... 川...

... 社... 仁... 恩... 社... 仁... 恩... 社...

[illegible]

予之建對
 形此之財
 清氣壯哉
 松之然外
 漢成世推
 掌一之浩
 忠之威載
 其子之身
 名之
 累難之
 際之

[illegible][illegible]

此は作中の金葉と云ふ作に
もたつて現る波に無常と云ふ作に
曾日始終未だ然らずと云ふ作に
不道に云ふ作に
此は作中の金葉と云ふ作に
もたつて現る波に無常と云ふ作に
曾日始終未だ然らずと云ふ作に
不道に云ふ作に

波に云ふ作に
もたつて現る波に無常と云ふ作に
曾日始終未だ然らずと云ふ作に
不道に云ふ作に
此は作中の金葉と云ふ作に
もたつて現る波に無常と云ふ作に
曾日始終未だ然らずと云ふ作に
不道に云ふ作に

此は作中の金葉と云ふ作に
もたつて現る波に無常と云ふ作に
曾日始終未だ然らずと云ふ作に
不道に云ふ作に
此は作中の金葉と云ふ作に
もたつて現る波に無常と云ふ作に
曾日始終未だ然らずと云ふ作に
不道に云ふ作に